



平成29年度 札幌市中学校英語教育研究会 会長挨拶

札幌市中学校英語教育研究会会長 中村 邦彦 (札幌市立明園中学校長)



平成29年度札幌市中学校英語教育研究会会長に選任されました、明園中学校の中村邦彦です。平成7年に発足しました本札中英研が目指してきました「会員相互の研修と識見の向上に努め、英語教育の振興を図る」目的の遂行に向け、与えられた役割を精一杯果たしていく所存ですので、ご協力のほどよろしくお願いたします。

「なぜ英語を教えるのか」「英語を学ぶことで、どのような生徒になってほしいと願っているのか」

英語教師になって以来、常にある自分への問いです。そして思うことは、英語を学ぶことで、子どもたちに、より豊かな、より良い人生を送ってほしいということに尽きるのです。

現代は、グローバル化が進展し、急速に変化する予測不可能な社会と言われます。例えば、普及率が72%と言われるスマートフォンですが、その代表格とされるiPhoneの登場は、たった10年前です。目の前の生徒が社会に出る頃の世界がどう変わっているか、誰にも予想はつきません。今、必要とされている知識が、必ずしも将来役に立つかどうか分からないのです。ただ、たとえ、どんな時代になったとしても、変わらず必要となるのは、より良く生きるために、仲間と知恵を出し合い、協力して、様々な課題を解決していくとする力ではないでしょうか。そして、その時に、武器となるのが言葉だと思うのです。特に、英語を使ってコミュニケーションできる力は、グローバル化が進む現在、様々な国の人たちとより良く課題を解決するために、ますます必要となっていくでしょう。そのためには、文法や語彙などの知識を与えたり、決められたフレーズをやり取りさせるだけではなく、英語を使って、どう人と繋がるか、相手と意見を交換しながら理解し合い、どう関係性を良くするかということ、授業を通じて学ぶことができるようにしていく必要があるのではないのでしょうか。

平成29年3月告示された次期学習指導要領にも、このことは、相手に「配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う」という表現で示されています。次期学習指導要領には、その他、「簡単な情報や考えなどを理解したり表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力」を育成すること、「聞くこと」「読むこと」「書くこと」に加え、「話すこと」を「発表」と「やりとり」の二つに分けて、五つの領域別の目標が示されたこと、授業を外国語で行うことを基本とすること、

などが盛り込まれました。特に、小学校学習指導要領が平成32年度から全面実施されるに伴い、教科としての小学校英語は平成30年度より各校の判断で先行実施することができるようになりました。早ければ再来年には、コミュニケーション能力の基礎が養われた子どもたちが入学してくることになるのです。今後、私たち中学校英語教師が取り組まなければならない課題は様々に出てくるでしょう。子どもたちだけではなく、私たち教師も、今までの知識や指導法だけに頼るのではなく、知恵を出し合い、協力して、様々な英語教育の課題を解決していく必要があるのです。本会が、札幌市の英語教師が集って、知恵を出し合い、子どもたちのために最善の指導法を学びあえる場としたいと願っています。

そのために、札幌市、さらに北海道の英語教育の推進に貢献し、研究内容を発信、アピールしていく研究会とするべく、これまでの方針を引き継ぎ、さらに充実させるために、6つの方針を掲げさせていただきます。

まず、「先進的研究の実践」です。本会として、札幌市の英語教育をリードしていく研究活動を今後も進めていきたいと考えています。

二つ目は、「英語を学ぶ機会の提供」です。札幌市に住む子どもたちの英語力を高める機会を提供し、子どもたちの英語学習へのモチベーションの向上を図っていききたいと願っています。

三つ目は、「実践交流」です。若手教員をサポートするワークショップ・学習会を通じて、本会の裾野を広げていきたいと願っています。

四つ目は、「アピールする広報」です。研究内容を積極的に発信する広報活動を展開し、研究成果を北海道、全国に広げていきたいと思ひます。

五つ目は、「他校種との連携」です。現在、中高英研の形で高等学校とは連携を図っていますが、今後は小学校との積極的な連携を図ってまいりたいと思ひます。

そして、最後に、「組織の強化」です。本会のもつ意義を会員に今一度確認していただくとともに、会員数を増やし、活動を広めていきたいと考えています。

本会を、子どもたちの豊かな未来のために必要な英語力の向上を図るべく、会員相互が研鑽し合い、高め合える場とするとともに、本市の英語教育の充実に寄与できるよう尽力してまいりたいと思ひます。会員の皆様のご協力をお願いいたします。

6つの 活動方針

1. 先進的研究の実践…札幌市の英語教育をリードしていく研究活動
時代の要請を察知し、絶えず研鑽を積む
2. 英語を学ぶ機会の提供…札幌市に住む子どもたちの英語力を高める機会の提供
英語学習へのモチベーションとなる目標を提供する
3. 実践交流…若手教員をサポートするワークショップ・学習会の提供 授業改善に向けて
4. アピールする広報…研究内容を積極的に発信する広報活動 「開かれた研究会」を目指して
5. 他校種との連携…小学校、高等学校との積極的な連携 相互に研究大会に参加できる関係作り
6. 組織の強化

研究主題 と重点

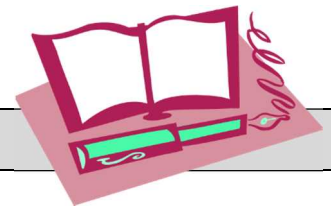
学ぶ意欲と確かなコミュニケーション能力の育成 ～CAN-DOリストの活用を通して～

これまでの研究の成果である4技能の統合的な活用、つまり input →(interaction) → output →(production) という流れを踏まえ、以下の点を重点として研究を進めていく。

- 1) CAN-DO リストを活用した授業のデザイン
- 2) 指導を反映したパフォーマンス評価の在り方
- 3) 教師と生徒、生徒同士によるインタラクションを軸にした授業展開
- 4) 自律的な学習を促す仕掛けと動機付け



平成29年度 活動予定



| | |
|-----|---|
| 5月 | ◇平成29年度 総会 (16日 札幌市立明園中学校) |
| 6月 | ◇研究部第1回学習会 |
| 8月 | ◇夏のワークショップ |
| 10月 | ◇高円宮杯第69回全日本中学校英語弁論大会 (9日 読売新聞北海道支社 6階小ホール) ◇第38回札幌市中学校英語暗唱大会 (21日 リフレサッポロ1階ライラックホール) |
| 11月 | ◇第6回札幌市中学校英語教育研究会 研究大会 (10日 札幌市立青葉中学校) ・公開授業 : 島本 勝弘 教諭 (札幌市立青葉中学校) ・講演 : 未定 ◇第38回全道中学校英語暗唱大会 (19日 札幌市教育文化会館4階講堂) ◇北中英研「理事会」(23日 ホテルライフオート札幌) ◇第60回北海道中学校・高等学校英語教育研究大会 (24日 ホテルライフオート札幌) ・提言 : 一関 浩 教諭 (札幌市立北都中学校) ・公開授業 : 上原 未来 教諭 (札幌市立宮の森中学校) ・講演 : 未定 ◇研究部第2回学習会 |
| 1月 | ◇冬のワークショップ |
| 2月 | ◇勇退される先生方を囲む会 |
| 3月 | ◇『札幌の英語教育』発行 |

札中英研で、一緒に学びませんか？

お問い合わせ先

札中英研事務局長 三上寛晃 (札幌市立北白石中学校教頭)

Tel:(011)871-2948 Fax:(011)871-3165

E-mail:hiroaki.mikami@city.sapporo.jp

